

- 2面 フェリーなみじ最終航海〈長崎〉
3面 金刀比羅安全祈願祭〈九州関門〉
神奈川県立海洋科学高等学校で
漁業ガイダンス〈三崎〉

船員しんぶん

◆ホームページアドレス <http://www.jsu.or.jp> ◆Eメールアドレス kaiin@jsu.or.jp
全日本海員組合発行 第3088号 (昭和25年8月24日第三種郵便物認可)

2025年(令和7年)
6月15日
本紙は毎月5・15・25日発行
〒106-0032 東京都港区
六本木7丁目15番26号
全日本海員組合本部
発行人 齋藤 洋
TEL 03-5410-8329
FAX 03-6910-5339
定価1部50円
(組合員の購読料は組合費に含む)

四国開発フェリー株式会社

大阪南港と 愛媛県・東予港を結ぶ オレンジフェリー



東予港に停泊中のおれんじおおさか



おれんじおおさか

今治市や松山市へのアクセスが便利

大阪と愛媛を結ぶオレンジフェリー(おれんじおおさか・おれんじえひめ)。大阪南港と愛媛県・東予港を約8時間で結ぶ。今年は大阪・関西万博や、瀬戸内国際芸術祭2025など、大阪から瀬戸内海にかけての大きなイベントがあり、トラックや家用車で移動するドライバーにも、仕事や健康面での負担を軽減してくれる船旅は利用者が多い。また、愛媛県の東予港から今治市へのアクセスが良く、サイクリストの聖地と呼ばれる今治から尾道までの「しまなみ海道」を楽しむ旅行者に、オレンジフェリーの「マイバイクステイサービス」が人気だ。

本組合の中・四国地方支部管内執行委員会が、今治市の愛媛支部で行われるのに合わせ、田中伸一組合長代行と荻山淳中央執行委員会企画室長代行が、その移動に大阪南港からオレンジフェリーを利用した。大阪南港から「おれんじおおさか」に乗船し、明石海峡航路から播磨灘、備讃瀬戸大橋を通過して、約8時間の航海で愛媛県・東予港に到着。「おれんじおおさか」は、東予港は、愛媛県の西条市と

制で同航路に就航している。カーフェリーのコンセプトは「動くホテル」。客室はシングルとツインタイプの全室が完全個室。いつでも利用できる展望風呂も魅力の一つで、航海中は瀬戸内海に浮かぶ島々と壮大な海の景色を満喫しながら、お風呂を楽しむことができる。

海技の伝承・未来へ紡ぐ操船技術・東予港での回頭着岸
オレンジフェリーが入港する東予港は、愛媛県の西条市と



左から荻山淳中央執行委員会企画室長代行、村瀬孝浩船長、田中伸一組合長代行、四国開発フェリー(株)の吉上勝典取締役



備讃瀬戸大橋



ロイヤルルーム



マイバイクステイサービス(自転車部屋に固定)

新居浜市にある港湾で、重要港湾に指定されている。愛媛県の工業活動の中核として重要な位置を占め、臨海部に立地する工場の原材料や製品の輸出入、阪神地域とを結ぶフェリーでの移動を中心に、産業活動と地域の物流を支える拠点港として重要な役割を果たし、現在は複合「貫輸送ターミナル」の整備を進めている。東予港は入出港時の水路が非常に狭く、大型カーフェリーの船体を港内で回頭させて着岸させる高度な操船技術が必要とされる港である。

「おれんじおおさか」の村瀬孝浩船長は「愛媛県東予港は新ターミナルに完全移転した。この愛媛県東予港は入港時の航路幅が狭く、港内は回頭しての着岸となる。さらには愛媛県の中心都市である松山市に抜ける岬「松里」から風が吹き降ろすため、着岸作業は、一層の緊張を伴う。乗組員一同、日々緊張感を持って安全運航に努めている。今後とも安心・安全で快適な船旅をお客様に届けたい」と語った。

田中組合長代行は「大阪南港から愛媛県東予港まで快適な船旅を体験させていただいた。愛媛県東予港の入港作業を視察させていただいたが、皆さんの緊張感がひしひしと伝わりプロフェッショナルな作業に感銘を受けました」と語り、狭水道航路を通過し、操船技術を駆使しての回頭着岸など、安全運航に努める組合員の皆さんを激励した。



操舵室



東予港へ入港



入港作業



東予港

九州商船株式会社

フェリーなみじ最終航海 離島航路を支えてくれてありがとう

全国発信記事

長崎支部
＝発信

左から戸村景介船長、中野重男機関長



フェリーなみじ

長崎県佐世保港と五島列島の二つ、上五島の有川港を結ぶ九州商船株式会社の「フェリーなみじ」が最終航海に臨み、多くの島民や関係者が別れを惜しんだ。「フェリーなみじ」は昭和62年12月に就航し、定期航路で就航しているフェリーとして日本国内では最も古い船であるが、船体や機器の保守状態も良好で37年間の長きにわたり、離島航路を支えてきた。5月30日からは、代替船「フェリーニューこしき」(総トン数940トン、旅客定員381名)が就航し、佐世保港と有川港の航路を一旦二往復し、上五島の島民の生活航路として、また、五島列島を訪れる観光客に充実した船旅を提供し、離島航路を支えていく。

佐世保と五島列島航路で活躍し、フェリーニューこしきと交代

これからは フェリーニューこしきの 活躍が期待される

九州商船株式会社は、前身の九州汽船が1911年(明治44年)創業の老舗の海運会社であり、西九州から南九州にかけ、さまざまな航路で旅客船・カーフェリーのほか、水中翼船やホバークラフトなども運航し、現在は長崎と五島・上五島、長崎と上五島・佐世保と宇久・小値賀・佐世保と上五島の航路などを中心に、フェリー4隻と高速船3



有川港で島民が見送り

は「九州商船株式会社に入社して2年後に本船が就航し、自身も佐世保地区の船員である時期も長かったことから、本船とともに船乗り人生を歩んできたといっても過言ではなく、本船最後の船長として役目を果たしたことは感慨深い。37年間にわたり安全運航を保つことができたことは、これまでの乗組員たちの努力の賜物であることに感謝したい」と語った。

また、中野重男機関長は「当社において自分の先輩にあたる本船は、高船齢によるトラブル対応など大変なこともあったが、無事に航海を終えることができた」と話をしてくれた。



操舵室



代替船・フェリーニューこしき



佐世保港に入港



金刀比羅安全祈願祭 海難事故と 船員災害の撲滅に向け 組合員の航行安全祈願

全国発信記事

九州関門
地方支部
＝発信



晴天に恵まれた5月27日、九州関門地方支部会館の屋上に祀られている「金刀比羅宮」において、金刀比羅安全祈願祭を開催し、全日本海員組合の政治参与をはじめ、海

晴天に恵まれた5月27日、九州関門地方支部会館の屋上に祀られている「金刀比羅宮」において、金刀比羅安全祈願祭を開催し、全日本海員組合の政治参与をはじめ、海

事関係者や行政機関、関係各社のほか全国海友婦人会・海員組合OB会など、総勢56人が参列し、神事が厳かに執り行われた。
安全祈願祭開催にあたり、主催者を代表して松本順一九州関門地方支部長は「海運水産業は、かつてから日本の発展に寄与し、国民にとって欠かせないライフラインとして生活を支えている。災害時においても船舶、船員は大きな役割を果たしているが、その認知度は低く後継者の確保、育成は急務となっている。国民の暮らしを支える基幹産業として、安全意識の向上、海難事故と船員災害の撲滅に取り組み、海運、水産業の発展につなげたい」とあいさつを述べた。
引き続き、宮司によるご祈



神奈川県立海洋科学高等学校 漁業ガイダンス 漁師の仕事!知る授業

全国発信記事

三崎支部
＝発信



5月9日、神奈川県立海洋科学高等学校実習棟2階教室で、漁業ガイダンスの「漁師の仕事!知る授業」が行われ、神奈川県立海洋科学高等学校の本科2年生9人と本科3年生2人、専攻科2年生1人の計12人が出席した。
この漁業ガイダンスは全国漁業就業確保有成センターが中心となり、本組合のほか、住吉漁業株式会社、大洋エーアンドエフ株式会社、共同船舶株式会社、株式会社長久丸勝倉漁業株式会社、有限会社廣屋の6社が参画した。
ガイダンス開始にあたり、全国漁業就業確保有成センターの北井楓係長から、本ガイダンスの趣旨説明があり、海員組合からは「各社からの

遠洋漁船の魅力を伝える

生徒たちは、会社側の丁寧な説明を受け、各社の概要をノートにメモを取る姿が見受けられた他、将来は遠洋マグロはえ縄漁船に乗りたいとの決意を示す生徒もあり、多くの意見交換が行われ、生徒たちも理解を深め、漁業ガイダンスを終了した。

2025年6月15日
中央選挙委員会 議長 齋藤 洋
第40期全国委員の資格喪失告示
一、次の者は、規約第47条A項8号により、全国委員資格を喪失したので告示する。
《全国区・全国単位》
沖村 佑稀
第40期全国委員の当選告示
一、規約第45条D項1号に基づき、次の者を繰り上げによる立選人とする。
《全国区・全国単位》
当選人 上田 武史 名門大洋フェリー 一等航海士
二、2025年6月5日付で告示した第40期全国委員補充選挙については、立候補の受け付けを締め切り、立候補者の資格審査を行い、候補者が適格であることを確認した。
対立候補者がいない立候補状況であることから、全国委員選挙規則第25条D項により投票を略し、当選人を次の通りとする。
《企業区・企業単位》
096 高松地区汽船グループ
（補充定員1名・立候補者1名）
当選人 濱崎 勉 伊島連絡交通事業 船長
以上



第52回神戸まつり

海にひらこう
われらの未来!

全国発信記事

関西
地方支部
＝発信

5月18日、神戸市三宮のフラワーストリートで第52回神戸まつりが開催された。初夏の汗ばむ陽気の中、沿道はおまつりパレードを目当てに来場した約78万9千人の観客で埋め尽くされ、街中が賑わいを見せた。

今年のオープニングは、阪神・淡路大震災から三十年を迎え、1995年から大切に歌い継がれてきた「しあわせを運ぶように」の大会唱でスタートした。

神戸まつりのメインイベントの「おまつりパレード」では神戸市民協会を先頭に、サンバ・民謡・マーチングバンドなどの個性あふれる67団体(約4600人)が、フラワーストリート・三宮中央通りを思い思いの衣装でパフォーマンスを披露し、沿道の観客を盛り上げた。

関西地方支部のメンバーは、恒例の船員職業アピールのパレードで「うみ・みなどの仲間たち」として、海事関係団体の約100人の仲間たちと共に行進を行った。今年は8番目の隊列で「海にひらこうわれらの未来」の横断幕を先頭に、船長服を身に付けてケイラインローローバルクシブマネージメント株式会社の山崎諒職場委員と上原颯馬在籍専従執行部員が、船に見立てて装飾された車両の上から笑顔で手を振り、時にはキリッとした表情で敬礼するなど沿道からのリクエストに応えた。

おまつりパレードで
観客を盛り上げる

2025.6.14 土

2025.8.31 日

対馬丸記念館
1階 企画展示室

【協力団体】
戦時沈没船舶追跡会、戦没船を記録する会、戦没した船と海員の資料館、全日本海員組合、全日本海員組合沖縄支部、他

【後援】
(株)沖縄タイムス社、(株)琉球新報社、琉球放送(株)、NHK沖縄放送局、琉球朝日放送(株)、沖縄テレビ放送(株)

【お問い合わせ】
対馬丸記念館 〒900-0031 沖縄県那覇市若狭一丁目25番37号 Tel: 098-941-3515 Email: info@tsushimamaru.or.jp

展示内容

戦時沈没船舶の紹介(船舶名、撃沈の日時、場所、書籍、証言など)

※展示期間中講話・映写がある場合は見学が制限される場合がございますのでご了承ください

関連企画

1 講演会(企画展示室内)

- 6/21 土 14:00～16:00 「戦没船を記録すること」
平山 賢一氏(戦没船を記録する会)
- 7/12 土 14:00～16:00 「沖縄関係戦没船調査について」
大城 敬人氏(戦時沈没船舶追跡会事務局)
- 8/30 土 14:00～16:00 「戦没船生存者の体験講話」
(展覧中)

2 映写会(企画展示室内)

「海なお深く―戦没船と船員の記録―」他

第33回高松海員親睦ゴルフ大会

五月晴れの中、
親睦を深める

全国発信記事

高松支部
＝発信

5月23日、高松市の鮎滝カントリークラブで高松海員親睦ゴルフ大会を開催した。当日は天候にも恵まれ、現場組合員のほか、組合員OB、海事関係者など総勢18人が参加し、ゴルフを通して親睦を深めた。

ゲームはダブルペリア方式による熱戦の結果、瀬戸大橋総合開発株式会社の坂井達也さんが優勝した。表彰式では坂井達也さんが「天候と、同じ組のメンバーに恵まれ、皆さんのおかげで良い結果となりました。来年も出場したいです」とあいさつし、盛大な拍手が送られた。

岡本裕一高松支部長は、ゴルフ大会に参加した関係各位へ謝辞を述べ、高松海員親睦ゴルフ大会は盛会裏に幕を閉じた。